

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	建築音響測定法小委員会	主 査 名：山内 崇 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：岩田 利枝 主 査 名：古賀 貴士
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築音響に関する測定方法について調査および検討を行う。 ・ フランキング成分を把握するための測定方法について検討を行う。 ・ 材料の吸音率測定や音場把握のために pu センサの適用に関する検討を行う。 ・ A 特性による遮音性能評価に関する検討を行う。 ・ 15 年度：上記検討の共同実験計画および実施。A 特性評価：測定上の課題整理。 ・ 16 年度：前年度実験結果による適用範囲検討および新たな共同実験の実施。 pu センサ：シンポジウム開催。A 特性評価：課題整理。 ・ 17 年度：前年度からの継続した検討および新たな取り組みに関する議論。A 特性評価：測定上の課題検討。大会 OS 企画検討。 ・ 18 年度：全体取りまとめ 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無し	
	主査：山内崇 (戸田建設技術開発センター) 幹事：杉江聡 (小林理学研究所)、竹林健一 (鹿島建設技研) 委員：曾田祐 (長谷工技研) 赤尾伸一 (三井住友建設技研)、稲留康一 (奥村組技研)、古賀貴士 (鹿島建設技研)、酒巻文彰 (永田音響設計)、坂本慎一 (東京大学生研)、田中学 (日本建築総合試験所)、富来礼次(大分大学)、平光厚雄 (国土技術政策総合研究所)、宮島徹 (清水建設技研)、矢野博夫 (千葉工業大学)、渡辺充敏 (大林組技研)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2018 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. フランキング成分を把握するための測定方法について協議し、共同実験を実施した。 2. A 特性による遮音性能評価を行う際の測定上の課題について、実測や試算結果をもとに検討し整理した。またそれらを音環境規準検討小委員会に報告した。 3. 2018 年度大会の OS を担当し実施した。
委員会活動の問題点 ・ 課題	委員会発足時の目標に従い活動を実施しているので、特に問題はない。

2017 年度 小委員会活動 自己評価

~~(中間年度評価)~~・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p><u>1. 音響インテンシティシティ法の検討</u> 15 年度: 局所的な漏洩音 (室間遮音性能測定におけるフランキンク成分) の計測に音響インテンシティ法を適用することを目的として、他の部位からの発生音の影響を把握するために、反射壁を用いた、より実際に近い音場を想定した共同実験を行った。 16 年度: 引き続きデータ整理を行った。 17 年度: フランキンク成分の計測への適用を視野に共同実験の企画を進めた。 18 年度: 共同実験の企画をさらに進め、実験室実験を実施した。</p> <p><u>2. pu センサを用いた吸音率および音場性状把握に関する検討</u> 15 年度: 前年度まで実施した音響エネルギー密度の測定結果を再分析し、文献等でセンサ校正方法について委員間の知識の共有を行った。 16 年度: pu センサを用いた音響エネルギー密度計測 (室内分布性状、床衝撃音、室間遮音への応用) およびセンサの校正について共同実験を追加で行い、実験結果について議論した。また、本センサに精通する研究者を招聘し、本検討結果も含めて、シンポジウムを開催した。 17 年度: 検討結果をまとめ、大会にて報告した。</p> <p><u>3. A 特性による遮音性能評価の検討</u> 15 年度: 音環境規準検討小委の依頼により、A 特性による遮音性能評価の際の測定上の課題を整理した。 16 年度: 引き続き課題整理および遮音性能データの取集を行った。 17 年度: 遮音性能評価を行う際の測定上の課題について、収集したデータをもとに検討を行った。 18 年度: 遮音性能評価を行う際の測定上の課題について、収集したデータに加え、試算結果をもとに検討を行い、音環境規準検討小委員会に報告した。</p> <p><u>4. 2018 年度大会の OS</u> 17 年度: 2018 年度大会の OS について、主旨、プログラム等について企画立案を行った。 18 年度: 企画に基づき、OS を実施した。盛況なセッションだった。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価: 小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価: 小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価: 小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価: 小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。